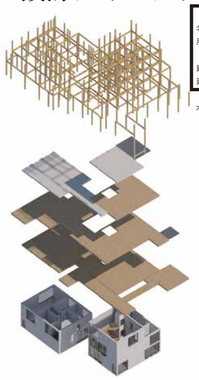
浜松城下計画

設計ダイアグラム



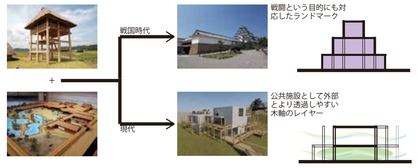
浜松城下計画 概要

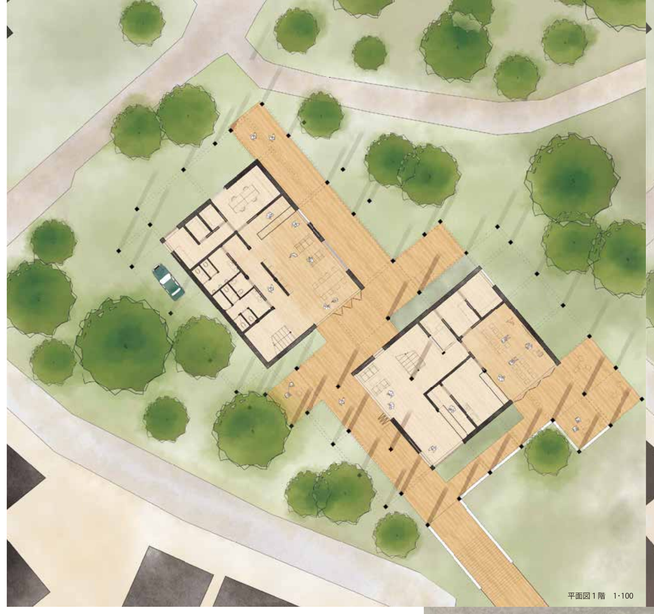
名称	浜松城下連合大学院大学
用途	大学のサテライトキャンパス、 地元企業のサテライトオフィス
建築面積	1,800m2（全 10 棟）
延床面積	5,000m2

木質軸組　多くの場合に城郭を構成する様々な曲輪は、それぞれが地形や城全体の配置計画によって決まるグリッドを持ち、同じ曲輪の中にある建物はそのグリッドに合わせて建物が建てられる。
今回の設計では、昔の城の配置ルールに従って建てられた周囲の既存建築や道路に合わせグリッドを設定し、木軸を建てる。

◀江戸の城の配置計画

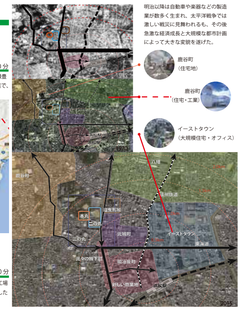
建物部　戦国時代の城は、本来物見櫓や大名屋敷のような建築が時代背景から天守閣という建築まで作り出したという経緯がある。一方で当計画においては「連合大学院」という特性上、企業・大学の各建物や、浜松城公園の豊かな自然環境とファブ的なつながりを生み出すため、建物の外周には壁ではなく柱の並ぶ、壁よりも透過しやすい構成とした。




平面図 1階　1・100

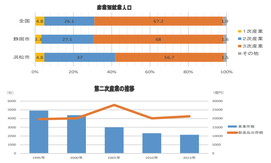
平面図 2階　1・100

広大な市域と、変貌する都市



「モノづくりの町、浜松」の危機

ヤマハやスズキ、ホンダの創業地として知られる浜松は、昔から製造業が盛んな「モノづくりの街」として発展してきた。
しかし近年円高などによって基幹産業である製造業の海外流出が起こっており、国内拠点の今後の戦略が求められる。



各企業の工場の海外流出によって、国内拠点の役割は単なる「製造」から、研究・開発による先端技術やイノベーションによる「モノづくり」をする場へと業態転換していくことが求められていると考える。

人口　太平洋ベルトに位置している静岡県・浜松市は人口も比較的多いが、東京へ上京する人々も多く、将来的な人口減少が予測されている。

在日外国人数　特に在日外国人の労働者が多く、彼らの多くは収入が少なく、その子供も十分な教育を受けられていない。

大学進学率　また、県内には大学以上の高度な教育を学ぶ場がほとんど無いため、大学進学をきっかけに東京へ進学してしまう若者が多い。

浜松がオトナになる「城」

CONCEPT
浜松を知る、未来をはじめる。

浜松の中心である浜松城公園に「連合大学院（サテライトキャンパス）」を作る。地元大学・企業は共同で研究開発を行い、それを市民が学び、新たなプロジェクトを立ち上げていく拠点となる教育の場を設ける。

TARGET
工場労働者

高い技術力や専門知識は持っている工場労働者が、他分野の複合的な知識を学ぶことで、社会で活躍する場を増やし、浜松に新たな産業を創造していく。

外国人
工場に出稼ぎに来ている外国人労働者とその家族

学生
地元の高校生から大学生。また浜松に興味のある他地域の大学生。

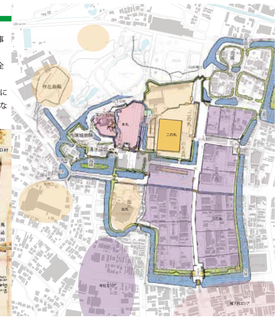
天守閣は、現代の要求に合った城全体の新たなプログラムに合わせ機能を転換させる。

また形態は、そのランドマーク性や求心性を活かすため全体の外形はそのままに、アイレベルでの形態は江戸時代を模した「閉じた観光のハコ」から、城全体や地域に開いていく。

浜松城の歴史

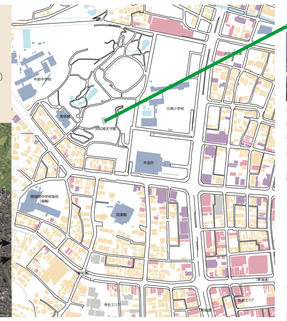
「城≠天守」

一般には城というと天守閣が最も目立つため、「城＝天守」と混同されることが多いが、地形の造作（普請）と建築工事（作事）によって出来ている大きな「総構え」と呼ばれるエリア全体を指す。築城に際して「縄張」と呼ばれる城全体の建築計画が行われる。
城は「曲輪」と呼ばれる堀や土塁・石垣で囲まれたエリアによって区画され、中心の本丸だけではなく作左曲輪や出丸などが存在した。



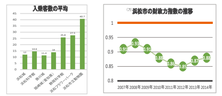
浜松城は天竜川の河岸段丘の境界にあり、市街地に対して高台に位置している。
その後、浜松型城下町では斜めに横付けされた鉄道駅と旧街道の間に新しい商業地区（浜松型城下町）が形成され現在に至る。
また江戸時代の曲輪は現在は図書館や高校となっている。

現在の建物１階の用途
- 住宅
- 商業
- オフィス
- 公共施設（学校）
- 公園
- その他



ニセモノ の振る舞い方

他の地域の人々からは浜松城は浜松の象徴と思われている浜松城天守閣だが、1959 年に建設された模擬天守である（床面積約 500m2）。近年は観光客も増加傾向にあるものの歴史性は乏しく、「来てがっかり」な観光地となっている。
またこれは地域住民にとっては長年無用の「ハコモノ公共施設」となってしまっている。

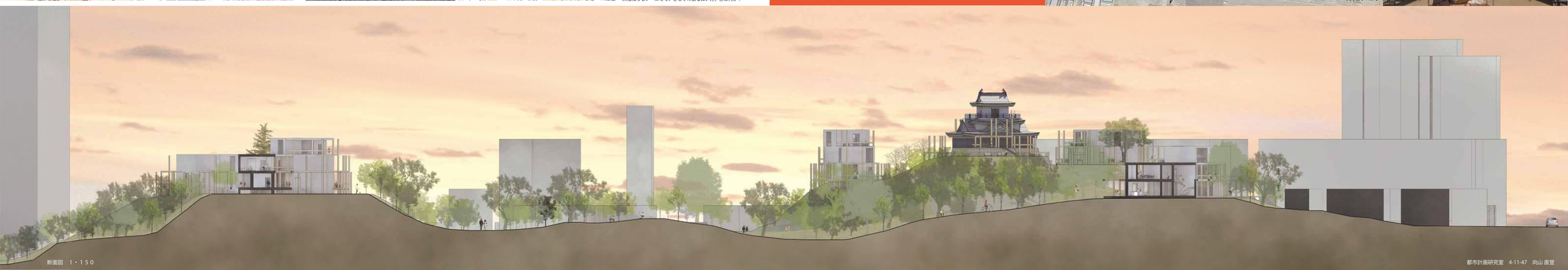


今後、市は浜松城の観光化に向け整備を進める方針だが、そもそも模擬天守であることはほとんど触れられていない。
浜松城らしい「ニセモノとしての振る舞い方」とは何か？

フューチャーエリアダイアグラム ▶
昔の城の配置ルールに従って建てられた周囲の既存建築や道路に合わせ新たに建物の配置グリッドを設定

「城」という、周囲から見られる・市内の象徴的な場所に、現在の浜松の各大学・企業が群的にサテライトキャンパスを構える。
都市に対して群的な建築を配置することで、これまで地域に対して閉鎖的であった浜松城や浜松城公園が、周囲とファブ的に接続されていく。

教育研究・事業創造拠点の「城」


断面図　1・150

都市計画研究室　4-11-47　向山 直登